

春分の日

明日は、「春分の日」です。いよいよ春本番、空気も水も温む頃となりました。日ごとに空も明るくなっており、心も軽くなるようです。

つい先日まで、来る日も来る日もどんよりとした空の下で、厚手のコートを着て寒さに震えていたのにとすると不思議ですね。

北海道の四季の変化は、シャープだと思います。それは北海道の特徴でもありますので、気節ごとに違う顔を見せてくれる北海道の自然を、もっと大切にしていきたいものです。

「春分の日」は昼と夜の長さが同じになるといいますが、実際は昼の方が約14分長いのだそうです。それは、日の出と入りが関係していて、太陽が地平線から少しでも出た瞬間を日の出とし、日の入りは太陽が全て沈んだ時刻で決めているからだそうです（菅井貴子著「北海道のお天気ごよみ365日」から）が、これからはもっともっと昼間が長くなっていきますので、そう考えると、「じっとしてはられない」そんな気分になりませんか。

国民の祝日に関する法律では、「春分の日」は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日とされているように、まさに春は、命の芽吹きを感じさせます。

また、「春分の日」と「秋分の日」を中心とした7日間を彼岸と呼ばれておりますので、この期間、祖先を偲び供養するため、お墓参りをしているご家庭も多いと思います。

「春分の日」と「秋分の日」は、彼岸の丁度真ん中に当たりますので「彼岸の中の日」と呼ばれていますが、このように、「春分の日」と「秋分の日」が仏教の行事と深く結び付いたのは、浄土思想との関わりからといわれています。

「春分の日」と「秋分の日」は、太陽が真東から昇って真西に沈んでいきますので、それはまるで太陽が、西方の遙か彼方にあるという浄土へ向かっていくように感じられる、ということだと思います。

春という字は、日と艸と屯との合字で、原義は「草が日光に照らされてようやく伸び出そうとする」とされ、そこから春の意にも用いられるようになりました。先日上京した折、風はまだ幾分冷たく感じましたが、春告草（梅）が咲いていました。もうすぐ全国各地から、桜の便りも届きます。

昨日漉きし紙春分の日を過す 昌勝

春の日差しは、冬の日差しの6割り増しだそうです。北海道は、まだまだ周りは雪に覆われていますが、その強い日差しを浴びて、まもなく一斉に草花が花開き、輝きを増すでしょう。それまで、もう少しの辛抱です。

（塾頭 吉田 洋一）